

まえがき

本書は、アジア経済研究所で2011年度から2年間にわたり実施した共同研究会「紛争と和解——アフリカ・中東からの視角——」（以下、「本研究」とする）の最終成果である。本研究は、2009～2010年度に実施した「アフリカ・中東における紛争と国家形成」研究会の成果（佐藤章編『紛争と国家形成——アフリカ・中東からの視角』アジア経済研究所 2012年）を踏まえ、紛争勃発後の時代を一種の国家形成（state formation）プロセスとしてとらえる認識に立ち、そこで和解がどのようにかかわっているのかを事例研究を通して考察しようとするものである。

本研究が対象とする和解は、従来の研究で力点が置かれてきた人権侵害の真相究明や司法的な取り組みといった領域に限定されない。むしろ本研究は、紛争勃発後の多くの国々における和解を掲げた取り組みが、真相究明や司法的裁き以外の分野での政策、制度構築、政治的対話や交渉などがかわる渾然一体たる過程として展開されてきた現実を目を向ける。実際、和解が掲げられている国々においては、和解という目標をどのように設定し、いかなる手段を用いてその実現をめざすかということそのものが激しい政治闘争の焦点となっている。そして、この政治闘争はしばしば、紛争終結をもって口火が切られるというよりは、紛争が展開されている最中から——いわば紛争勃発後から——、来たるべき和平を見据えた政治主体間の駆け引きのなかで行われるものでもある。

すなわち本研究のねらいは、和解の名のもとに、また和解そのものをめぐり展開されている動的な過程に焦点を当て、その過程が国家と政治の変化に照らして持つ意義を解明することにある。

この問題意識のもと、本研究はアフリカと中東に焦点を当てた。1990年代以降、紛争多発地帯の様相を呈したこの両地域は、今日の紛争問題を考えるうえでとりわけ重要な意味を持っている。具体的な作業としては、両地域か

らそれぞれいくつかの事例国を選択し（ルワンダ，ブルンジ，南アフリカ，イラク，ケニア，コートジボワール，ソマリア，シリア），最新の情勢をできるかぎり詳しく把握しながら，各国固有の文脈に照らして考察する地域研究の手法に則って分析を行った。これにより本研究は，両地域における紛争ならびに現代政治の動態を再構成し，上述のねらいに基づいた知見を導出することをめざすものである。

2013年7月

編 者